

課題番号： 1MF-2203

研究課題名：SDGs 実現に向けたフォローアップ・  
レビューのガバナンスに関する比較研究

研究代表者名：天沼伸恵（地球環境戦略研究機関（IGES））

体系的番号： JPMEERF20221M03

重点課題：主 ②ビジョン・理念の実現に向けた研究・技術開発

研究実施期間：2022年度から2024年度

### 【研究体制】

サブテーマ1：天沼伸恵、小野田真二、藤野純一、サイモン・オルセン、  
ムスタファ・モイヌッディン、福田美紀（地球環境戦略研究機関）

サブテーマ2：片岡八束、フェルナンド・オルティスモヤ（地球環境戦略研究機関）

# 【1. 研究背景、研究開発目的及び研究目標】

## 【研究背景】

### 世界的なSDGs実施強化の必要性

- SDGsは一部目標で進展が見られるものの、特に**気候変動、生物多様性、廃棄物分野では後退**しており、後戻りできない転換点に向かっている。
- 現行のSDGsのフォローアップ・レビュー（FUR）方法は自由度が高く、多くの国で効果的に行われておらず、**SDGs実施強化に繋がっていない**。
- 2030年までにSDGsを達成するには、各国がSDGsの要求水準に見合う目標・指標と推進体制を確立し、その進捗状況を適切に評価することで、**SDGsの実施強化へと繋げていくFURの枠組みを構築することが急務**。

### 日本におけるSDGsのFUR強化の必要性

- 日本政府も今後の課題として、SDGs推進体制の強化、国レベルの目標や指標の整備を含めた進捗評価体制の整備、今後の自発的**国家レビュー（VNR）作成等、FURのガバナンスに関する要素を挙げており、FURガバナンス強化の高い行政ニーズがある**と言える。
- 数年以内に、SDGsの進捗を踏まえ、ポストSDGsアジェンダ策定に向けた議論が国際的に始まると考えられ、日本としての貢献が求められる。

## 【研究開発目的】 **SDGs達成さらにはポストSDGsに向けた知見の蓄積に貢献**

達成が危ぶまれるSDGsの進展を加速させ、日本政府が課題として挙げる点への対応に資するため、**SDGsにおける効果的な国レベルのFURガバナンスのための諸条件を特定し、FURガバナンス強化のための方策を示す**。これを通じて、**SDGs達成さらにはポストSDGsに向けた知見の蓄積に貢献する**。

# 1. 研究背景、研究開発目的及び研究目標

## 【研究目標（全体目標）】

### 1. SDGsのFURガバナンス強化のための方策を示す

- SDGsにおける効果的な国レベルの**FURガバナンスのための諸条件を特定**する。  
（FURガバナンス：目標・指標設定、FURの推進体制、FURプロセスへのステークホルダー参画、国と地方のFURの接続性、FUR後の取組改善等）
- 国レベルの**FURの枠組み及びプロセスに関する方法論を構築**する。

### 2. 日本に対して国レベルのFURに関する提言を行う

- 地域におけるFURから**国レベルのFURに活用可能な教訓を導出**する。
- 日本の政治システム及びステークホルダー参画における文化的背景等に鑑み、国と自治体レベルでのFURの接続性のあり方も踏まえ、**日本に適した国レベルのFURの枠組みと参加型プロセスを提示**する。

## 2. 研究目標の進捗状況

### (1) 進捗状況に対する自己評価 (サブテーマ1)

#### SDGs実現に向けた国レベルのフォローアップ・レビューの枠組みとプロセスに関する研究

##### 【サブテーマ1の研究目標】

国レベルのFURの枠組み及びプロセスに関する方法論を構築する。国と自治体レベルでのFURの接続性のあり方も踏まえ、日本に適した国レベルのFURの枠組みと参加型プロセスを提案する。

##### 【令和4年度研究計画】

4か国を対象に文献調査を行い、国レベルのFURのための枠組みとプロセス及びステークホルダー参画の詳細を整理する。その情報を基に、インタビューでの質問項目の洗い出しと、日本におけるFURの枠組みとプロセスを提案する際に考慮すべき要素を整理する。

##### 【令和5年度研究計画】

インタビュー調査を実施し、各国のFURの枠組みとプロセスの実態について特徴と課題をまとめる。研究全体を総括し、SDGsのFURの枠組み及びプロセスの方法論を構築する。SDGs実施指針の改訂やHLPF等にインプットする。

##### 【令和6年度研究計画】

必要に応じ追加的な調査を行いつつ、研究全体を総括し、日本政府へSDGsのFURの枠組み及びプロセス構築に関する具体的な提言を作成する。

【自己評価】 計画通り進展している。一部、計画以上の進展がある。

## 2. 研究目標の進捗状況

### (2) 自己評価に対する具体的な理由・根拠と目標達成の見通し（サブテーマ1）

#### 【具体的な理由・根拠】

- 研究は当初の計画通り進められている。
- 計画以上の進展として、研究対象にインドネシアを加えて研究を進めている。また、追加的に本研究の深化に資すると思われる分野において複数の研究を進めており、その一つは既に論文として発表された。その他の研究も本年中に成果を発表できる見込み。
- 研究成果を政策に反映する活動に関して、当初の計画より早くから機会を捉えて、SDGs実施指針改定のプロセスに研究内容をインプットした。日本への提案に加えて、デンマークとフィンランドに対してFUR強化に資する具体的な提案をした。

#### 【目標達成の見通し】

計画に沿って順調に研究を進めており、目標を達成することができる見通しである。FURガバナンスのための諸条件は概ね特定し、FUR枠組みを構築した。現在、インタビューの分析結果に基づいて、このFUR枠組みに条件を適宜追加している。また、海外でのFURに関する議論やポストSDGsの構築への貢献については、既に「議論への貢献」を超えて、FUR強化に資する提案を行うことができた。ポストSDGsの構築への貢献については、ポストSDGsを構築する際の要となるであろうスピルオーバーに特化した研究を進めるとともに、トレードオフに焦点を当てた研究も進めており、FUR全般に関する研究結果と合わせて、ポストSDGsの構築に貢献していけるものと考えている。

## 2. 研究目標の進捗状況

### (1) 進捗状況に対する自己評価 (サブテーマ2)

#### 国との連携を見据えた地方自治体レベルのフォローアップ・レビューに関する研究

##### 【サブテーマ2の研究目標】

先進自治体のSDGsのフォローアップ・レビューの枠組みとプロセスの事例研究を通じて、国レベルのFURに活用可能な教訓の導出、国と地域（自治体と地域ステークホルダー）をつなぐFURの枠組みを提示する。

【令和4年度研究計画】 国内外の自治体・地域ステークホルダーを対象とした、半構造化インタビュー、文献調査、アンケート調査を通じて、SDGsの実施、指標設定、FURにおけるステークホルダーの参画の方法・程度、設定指標の内容、また、各自治体の各種計画の立案・モニタリング・レビューとの関連性について調査を行う。

【令和5年度研究計画】 ステークホルダーの参画による地域のFURのあり方、国とのFURの接続性に関する枠組案を提案し、国内の2自治体程度で議論・検証するとともに、令和4、5年度に実施した調査・分析と検証内容について国内外の関係者との対話を通じて精緻化を図る。

【令和6年度研究計画】 地方からみた国と自治体のFURの接続性の提案を精緻化し、サブテーマ1へ共有するとともに、日本の自発的自治体レビュー（VLR）の展開に関する提言案作成、国際的な知見共有、論文への取りまとめを行う。

【自己評価】 計画通り進展している。一部、計画以上の進展がある。



## 2. 研究目標の進捗状況

### (2) 自己評価に対する具体的な理由・根拠と目標達成の見通し（サブテーマ2）

#### 【具体的な理由・根拠】

- 研究は当初の計画通り進められている。
- 海外自治体の事例研究について計画よりも多い8自治体を対象に半構造化インタビューを行うとともに、主題分析を進めるとともに、日本の自治体への提言について予備的考察を行なった。
- 国内自治体への聞き取り・インタビュー（4自治体）や机上調査を行うとともに、具体的なFURの方法を自治体と議論・検証するための検討を行なった。予定されていたアンケート調査は、既存の調査との重複を避けるとともに、キックオフ会合での指摘を十分反映し、実質的なものにするための戦略的な理由で令和5年度に実施することとしており、実質的な遅れには当たらない。
- 対外発信については、IGESが持つ海外ネットワークを活用しつつ、国連ハイレベル政治フォーラム等の国連や国際的な都市・自治体ネットワーク組織等が主催する国際会議において積極的に研究の中間成果や日本の取り組みの発信を行なった。

#### 【目標達成の見通し】

- 研究計画に基づいて実施されており、当初目標を達成できる見込みである。
- 国際社会への発信、新潟県佐渡市がVLR実施を自治体SDGsモデル事業の検証への導入予定など初年度において一定の政策への貢献ができた。令和4年度に実施したインタビュー調査結果の分析を進める中で、引き続き対外発信を行うとともに、準備中の学術論文の発表等を通じて、効果的なFURのガバナンス構築及びポストSDGsの議論に貢献できるものと思料する。

### 3. 研究成果のアウトカム（環境政策等への貢献）

#### 行政等が活用することが見込まれる成果①

- 女性、若者、国会議員の参画と役割：SDGsのパフォーマンスと国会議員に占める女性議員・若手議員の割合との相関性を調べた論文からは、女性議員の割合や議員の平均年齢の若さがSDGsのパフォーマンスと正の相関関係にあることがわかった。この結果は新聞等で広く報道され、関心が高まっており、今後、SDGsに関する政策プロセスへの女性・若者等の参画が拡大したり、議会の役割が議論されることが見込まれる。
- 経済・社会分野と環境分野のシナジーを意識した環境政策：上記の論文は経済社会分野と環境分野の間にトレードオフが存在していることを確認した。また、トレードオフを解消しない限り、女性・若者等の参画が増えたとしても、SDGs達成は見込めないと結論付けた。今後、両分野間のシナジーを意識した取組や政策等を提案していくことで、それらが活用されることが見込まれる。
- 他国へのスピルオーバーを意識した環境政策：スピルオーバーに関する研究では、SDGsのパフォーマンスがマテリアルフットプリントと正の相関関係にあることを確認した。今後、具体的な提案をすることで、スピルオーバー考慮した国内・国際指標作りが進むことが見込まれる。



### 3. 研究成果のアウトカム（環境政策等への貢献）

#### 行政等が活用することが見込まれる成果②

- SDGs実施指針改定へのインプット：令和4年に「SDGs実施指針に関するパートナーシップ会議」にて本研究から得た知見をインプットした。SDGs実施指針改定は本年秋ごろに予定されていることから、本研究の知見をタイムリーにインプットし続けていくことで、実施指針に効果的なFURの要素や原則などが含まれることが期待される。
- HLPF等国際プロセスへのインプット：本年開催されたHLPFのサイドイベントにおいて、SDGsの実施を加速させるうえでのFURの重要性を強調するとともに、省庁間の連携強化（会計検査院や統計局を含む）やステークホルダー参画の機会拡大が制度に組み込まれることが重要である点を強調した。日本や海外で、会計検査院や統計局、国会、多様なステークホルダーの参画が進むこと、ひいてはVNRの報告内容が向上すること、ポストSDGsの議論へのインプットと見込まれる。
- FURのツールとしてのVLRに関する研究成果の国内外への発信：FURに関する論文発表、国際的なアドボカシー、アジェンダセッティングをリードしているUNHABITATやUCLG、UNESCAPなどの国際的な機関と連携したイベント開催、報告書執筆への協力などを通じて、国際的なポストSDGs議論への貢献を企図する。
- 佐渡市の自発的自治体レビュー（VLR）支援：本研究下における対話から佐渡市が自治体SDGsモデル事業のFUR実施のツールとしてVLRを導入することにしている。佐渡市の事例をモデルケースを創出し、他の自治体への横展開を図ることを通じて、ローカルSDGs＝地域循環共生圏の構築に貢献する。また、日本からのグッドプラクティスとして国際的な発信を行う。

# 3. 研究成果のアウトカム（環境政策等への貢献）

## 行政等が既に活用した成果

- デンマークの国会議員に働きかけ、デンマークの省庁が行うSDGs関連の活動に国会が予算をつけることを提案した。会計検査院の果たせる役割を拡大することでFURを強化し、SDGsの実施を加速することができると考えられるためである。本提案への対応ぶりについて、本政治家は会計検査院と相談する予定となっている。
- 本研究下において提案を行った結果、新潟県佐渡市が「2023年度自治体SDGsモデル事業」提案にて、進捗評価体制・効果検証の方法に「自発的自治体レビュー（VLR）」を取り入れた。同モデル事業においては、脱炭素社会・資源循環型経済・自然共生社会の実現をアウトカムとして位置付けており、総合的な環境政策の推進に貢献するものと思料する。
- 本研究を通じた国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）との対話の中で、ローカルSDGsのFURのツールとしてVLRの推進をアジア・太平洋地域で協力して図っていくことで一致した。具体的な活動として、インドネシア・西ジャワ州においてVLRの実施を同委員会の資金支援を通じて実施することとなり、2023年5月25日に地元ステークホルダーを巻き込んだキックオフ会合が開催された。本研究で得た知見をもとに、同州のVLR実施過程において提言を行っていく。

## 4. 研究成果の発表状況（論文等）

### 【誌上発表（査読あり）2件】

- Amanuma N, Zusman E and Langlet D 2023 The relationship between female and younger legislative representation and performance on the Sustainable Development Goals (SDGs) Environmental Research Letters 18 054018 (IF:6.947)
- 【予定】 Olsen, S. and Moinuddin, M. (forthcoming) Review of SDG progress and measurement: room for improvement? (tentative), Fostering Sustainable Development in Practice, World Sustainability Series, Springer.

### 【査読付き論文に準ずる成果発表2件】

- Olsen, Simon et al. 2022. Strengthening the Environmental Dimension of the Voluntary National Reviews in Asia-Pacific: Lessons Learned and Ways Forward. United Nations Environment Programme.
- Ortiz-Moya, F., Tan, Z., and Kataoka, Y. 2023. State of the Voluntary Local Reviews 2023: Follow-up and Review of the 2030 Agenda at the Local Level. Institute for Global Environmental Strategies. July 2023. Hayama, Japan

## 4. 研究成果の発表状況（口頭発表等①）

### 【口頭発表 16件】

- 小野田真二、SDGパートナーシップ会議（2022）「繁栄」に関するドイツのSDGs国内ターゲット設定の事例
- S. Olsen and M. Moinuddin, World Symposium of Climate Change and Sustainable Development Centres, Hamburg, Germany, 2023. Review of SDG progress and measurement: room for improvement?
- Olsen, Simon Høiberg and Mustafa Moinuddin 2022. HLPF Side event 7 July 2022: UNEP Asia-Pacific Regional Review of SDG VNRs (2016-2021): Knowledge and experiences on environmental dimension of the SDGs. HLPF Side Event 7 July 2022.
- Moinuddin, Mustafa and Simon Høiberg Olsen 2022. UNEP Asia-Pacific Regional Review of SDG VNRs (2016-2021): Knowledge and experiences on environmental dimension of the SDGs. Side event on Child and Environment Related SDG Indicators: adoption, gaps and sources. 23 August 2022 Bangkok
- 武内和彦、ハイレベル政治フォーラムサイドイベント（2023年7月17日）アジアと世界における気候変動とSDGsのシナジーに関するエビデンスを行動へ フレーミングプレゼンテーション
- 【予定】福田美紀、第34回日本環境教育学会年次大会（2023）SDGs実施プロセスにおけるユースの参画：フィンランドと日本の比較研究
- 【予定】小野田真二、環境経済・政策学2023年大会（2023年予定）国におけるSDGsのフォローアップ・レビューに関する比較分析
- Kataoka, Yatsuka. Data innovation for reporting and planning. Session 3: 2023 VLR-VSR Day Event at the High-level Political Forum on Sustainable Development 2023, 18 July 2023. (Online)
- Ortiz-Moya, Fernando. VLR and VSR cocreation from the bottom-up: Stakeholder engagement and citizen knowledges. Session 4: 2023 VLR-VSR Day Event at the High-level Political Forum on Sustainable Development 2023, 18 July 2023. (Online)

## 4. 研究成果の発表状況（口頭発表等②）

- Kataoka, Yatsuka. Multilateral Governance for Effective Localization of SDGs: Towards a Sustainable Urban Future. Side event of the High-level Political Forum on Sustainable Development (HLPF) 2023. New York, USA. 10 July 2023.
- Kataoka, Yatsuka. What Happens After the VLR? A conversation about the transformative impact of SDG localization and voluntary local reporting. Side event of the High-level Political Forum on Sustainable Development (HLPF) 2023. New York, USA. New York, 11 July 2023.
- Ortiz-Moya, Fernando. Local Level Follow-up and Review of the SDGs through Voluntary Local Reviews. 'Glocalisation': Catalysing Local Implementation of Global Goals in Asia and the Pacific. Side-event of the 10th Asia Pacific Forum for Sustainable Development (APFSD). Bangkok, Thailand. 27 March 2023.
- Ortiz-Moya, Fernando. Advancing Implementation of the SDGs: Workshop on Voluntary Local Reviews. Helsinki, Finland, 3-4 October 2022
- Ortiz-Moya, Fernando. Monitoring & Reporting on the SDGs: Why and How to Capture SDG Progress at the Local Level? Local4Action Track, UCLG World Congress. Daejeon, South Korea, 13 October 2022
- Ortiz-Moya, Fernando. High-Level Political Forum 2022 Debrief. Geneva, July 18 2022 (on-line)
- Ortiz-Moya, Fernando. Voluntary Local Reviews (VLRs) - Connection to National Implementation of the 2030 Agenda. Side event of the High-level Political Forum on Sustainable Development (HLPF) 2022. New York, July 14 2022 (on-line)



## 4. 研究成果の発表状況（公表・報道等）

### 【「国民との科学・技術対話」の実施2件】

- 【予定】SDGs Youth Forum (主催：Japan Youth Platform for Sustainability、2023年7月28日予定、オンライン、視聴者約100名)にて講演
- 【予定】SDGs実施指針改定に向けたウェビナー（仮）（主催：地球環境戦略研究機関、2023年10月予定、オンライン）

### 【マスコミ等への公表・報道等5件】

- 財経新聞（令和5年5月23日、オンライン、「国会における女性・若手議員の割合とSDGsの進捗に相関関係」）
- 化学工業日報（令和5年5月30日、オンライン「女性・若手議員が多い国ほどSDGsが進展」）
- 化学工業日報（令和5年5月30日、新聞「女性・若手議員が多い国ほどSDGsが進展」）
- 朝日新聞（令和5年6月13日、オンライン、新聞「若い世代と女性の国会議員 多いほどSDGsを達成遅れる日本」）
- 創価新報（令和5年7月19日、新聞1面・2面「どうなる、どうするSDGs?」）

## 5. 研究の効率性（研究体制）

SDGsのFURに関する研究に従事したことのある研究員が中心となったチームを構築し、異なる分野のアドバイザーから定期的にアドバイスを受けながら研究を進められる体制を構築した。

研究代表者（サブテーマ1リーダー）の不在中は、サブテーマ1に研究協力者（のちに研究分担者）を補充することで、研究の進捗を確保した。また、サブテーマ2リーダーを研究代表者代理とすることでサブテーマ間の連携を促進した。

### 全体統括

研究代表者：IGES 天沼伸恵（研究代表者代理：IGES 片岡八束 令和4年6月3日から5年4月30日まで）

### サブテーマ1（対象：国） + 全体統括

リーダー： IGES 天沼伸恵  
（リーダー代理：IGES 小野田真二  
令和4年6月3日から5年4月30日まで）

研究分担者：IGES 小野田真二  
IGES 藤野純一  
IGES ムスタファ・モイヌッデイン  
IGES サイモン・オルセン  
IGES 福田美紀（令和5年6月1日以降）

### サブテーマ2（対象：自治体（地域））

リーダー： IGES 片岡八束

研究分担者：IGES フェルナンド・オルティスマヤ

# 5. 研究の効率性

## 課題管理

各サブテーマ内では定期的にミーティングを開催し、研究の目標や進捗を確認し合ったり、研究の内容を議論・意見交換したり、研究に関する情報を共有したりしている。

サブテーマ1と2の間でも連携をとるために、定期的に協議する機会を設けており、研究の方向性や進捗を共有している。また、サブテーマ2はサブテーマ1より先にインタビューを実施し、データ分析をしていることから、その過程で得た教訓を共有してもらうなどして、サブテーマ1の研究に生かしている。また、サブテーマ1が研究する国レベルのFURとサブテーマ2が研究する地方レベルのFURの接続に関して、情報交換を始めている。

## 研究資金運用

【サブテーマ1】インタビューや研究成果発表の場を活用して、個別の国に具体的な提案をすることで研究資金運用の効率化を図っている。また、燃油費などが大幅に上がっているため、オンラインでのインタビューを増やしたり、インタビューと海外での学会発表を一つの出張で済ませられるよう日程を調整したり、研究・発表・各国への働きかけなどの複数の活動を同時に進めたりすることで、研究資金運用の効率化を図っている。さらに、本研究の成果を核とし、他の関連する研究から得られた知見も組み合わせることで政策面へのインプットをするなどして、より大きなインパクトを生み出そうとしている。

【サブテーマ2】海外都市へのインタビューの実施にはオンラインツールを最大限に活用する一方で、対面での開催が主となる国際会議には出張対応をするなど、メリハリのある資金運用を心がけた。また、IGESの自己資金で行うSDGsの地域化に関する研究との連携を図った。